平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	5	ー	22

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	高齢者等入浴優待事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	山 崎 佳 之		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	本町に居住する高齢者、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者の健康の増進と生きがいの充実を図ることを目的に要件を満たす方へ、ホテル日の出岬で利用できる入浴優待券を交付する。					

全体計画 /単年度繰返 （平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	10,500 千円
	事業費計	10,500 千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　　）
第５期 総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 B

事業の位置付け			
政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
基本施策	7	高齢者支援の充実	
単位施策	2	生活支援の充実	
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務	
その他計画・根拠等	雄武町高齢者等入浴優待事業実施要綱、高齢者保健福祉計画		

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	802 千円	945 千円	1,151 千円	1,149 千円	800 千円
雄武町負担額（一般財源）	1,390 千円	1,177 千円	952 千円	896 千円	1,300 千円
合計	2,192 千円	2,122 千円	2,103 千円	2,045 千円	2,100 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	高齢者等	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう、各種高齢者福祉サービスの充実など総合的な支援が求められている。	入浴優待券交付人数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	高齢者等における健康の増進と生きがいの充実を図った。	① 実績人数	目標年度	平成23年度
			目標値	704 名
			実績値	704 名
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	温泉施設を利用することで、高齢者等の健康保持と健康増進を図る。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①入浴優待券の交付	対象者からの申請に基づき、審査を行い、ホテル日の出岬で利用できる入浴優待券を交付した。
②入浴優待料金の支払い	優待券利用分の入浴料金を、ホテル日の出岬へ支払った。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	温泉入浴は健康増進や疲労回復の効果があり、当該事業による町の支援は必要性が高く、支援を行わない場合は、高齢者や障がい者等の健康増進などを損なうおそれがある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	当該事業を実施することで、高齢者等の健康増進と生きがいの充実が図られた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 ■時間短縮・作業軽減 □その他	前年度の申請者については、予め申請書を作成しておくことで、申請書を記載する時間と待ち時間が短縮できた。今後も事務処理の工夫をしながら経費節減に努めていく。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	必要な条件を具備していれば、全ての申請者に交付されることから公平である。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
温泉入浴を楽しみにしている高齢者等にとって健康増進と生きがい充実の観点からも必要性が高く、高齢者等の生活と福祉の向上を図るものとして適当である。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
健康増進及び生きがい充実を図るため、町の支援は必要であり、高齢者福祉及び障がい者福祉向上のため、継続して行う必要があることから、現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）